



2017年度 総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催

教務課



発表会場の様子



質疑応答の様子



“The Get-Together Party”の様子

2017年6月27日（火）・28日（水）の2日間にわたり、6年次生の卒業論文発表会を創立130周年記念館にて開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。6年次生は、海外学術交流協定校からの招待者（8校25名）、外国人留学生、大学院生等と活発な意見交換を繰り広げ、活気あふれる発表会となりました。

CONTENTS

■ 特集

6年制の就職・進学実績を振り返る 4

■ コラム

水中でぶつぶつ 8
卒業生からのメッセージ 12
私の薦める、私の一冊 20
学生相談室だより 22

■ 報告

2017年度、2018年度大学院入学選考結果 2
MCPHS大学サマープログラムに参加して 9
「英語で京都をプレゼンテーション」を受講して 11
第102回薬剤師国家試験の結果について 14
2017年度京都薬科大学給付型奨学生決定・表彰 16
大学院トピックス 20
受賞・掲載 26
京都薬科大学奨学金寄附金芳名録 28

■ ご挨拶

ご挨拶 3

■ イベント

2017年度総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催 .. 1
第4回卒業生・在学生交流会を開催しました 8
第11回自治会執行部主催七夕企画 12
2017年6月、8月にオープンキャンパスを開催しました 18
理科実験講座「身近な夏の不思議体験2017イン山科」 21

■ お知らせ

Library News 13
第15回文化講演会のお知らせ 20
生涯教育センターからのお知らせ 23
クラブだより 24
人事異動 25
2017年度学位記授与式（前期） 25
京薬会だより 28

発表会では、特に活発な発表を行った学生約90名に、海外学術交流協定校の先生方から発表会終了後に開催する“The Get-Together Party”への招待状が授与され、パーティーで親交を深めることとなりました。



Welcome Meetingの参加者（招待者と本学教員）

＜スケジュール＞

日時		系	分野
6月27日	第1部 13：30～14：50	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
	第2部 15：20～16：40	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学 細胞生物学、生化学、病態生理学
	第3部 17：10～18：30	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学 薬理学、臨床腫瘍学

6月28日	第1部 13：30～14：50	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター、情報処理教育研究センター
		附属施設	薬用植物園
	第2部 15：20～16：40	創薬科学	薬品製造学、薬品化学、生薬学

2017年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学）、 2018年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考結果

Report

入試課

2017年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学）、2018年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考を実施し、合格発表を行いました。入学選考の結果は各表の通りです。

○2017年度薬学専攻博士課程（秋季入学）

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

○2018年度薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	8名
受験者数	8名
合格者数	8名

新任のご挨拶



医療薬科学系
薬剤学分野

もりした まさき
助教 森下 将輝

この度、平成29年7月1日付で薬剤学分野の助教に着任いたしました。本誌面をお借りして、自己紹介をさせていただきます。

私は平成25年に名城大学薬学部を卒業後、京都大学大学院薬学研究科へと進学し、高倉喜信教授のご指導の下、平成29年に博士課程を修了いたしました。

私は、薬物送達法の概念に基づき細胞分泌小胞で

あるエクソソームの製剤開発および疾患治療への応用に関する研究に携わってきました。これまでに、癌細胞由来エクソソームの体内動態特性を解明するとともに、免疫賦活剤の利用により癌細胞エクソソームが有する抗腫瘍免疫活性を向上させることに成功しました。

本学での業務が私にとって教員としての初めての活動となります。多くの先生方や学生から日々学ぶことばかりですが、幅広い分野で活躍するファーマシスト・サイエンティストの輩出に貢献できるよう尽力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



事務局
調達検収室

さかぐち よしみ
室長 坂口 義美

2017年7月1日付で調達検収室室長に着任いたしました。

私は、6月末までの41年間、国立大学に勤務しておりました。どちらかと言えば、会計畑の人間でして、契約・会計監査・予算・管財等の実務経験が長いのですが、教務や総務系、人事労務の業務にも携わっておりました。国立大学は2004年に法人化さ

れ、護送船団の体制から競争の時代に一変したことで業務が右往左往したこともありましたが、国の政策に対応するための体制づくり、現行制度の見直しや新たな制度の導入等、法人化後の13年間の業務は充実し、短く感じました。

この度、京都薬科大学の事務改組により調達検収室が新設され、その初代室長に任命されたことは大変光栄なことであると同時に責任重大であると認識しております。今後は、これまでに培った経験を活かし、本学の契約事務の一層の適正化に向けて尽力する所存でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

昇任のご挨拶



共同機器利用センター

はっとり やすなお
講師 服部 恭尚

この度、平成29年7月1日付で共同利用機器センターの講師を拝命いたしました。私は平成13年に信州大学農学部を卒業後、同大農学研究科修士課程に進学しました。その後、信州大学大学院総合工学系研究科に進学し後藤哲久教授と真壁秀文教授のご指導の下、博士号を取得しました。学位取得後は米国国立衛生研究所 Visiting Fellow (Dr. Ettore Appella) として新規乳がん阻害剤の探索研究に従事しました。その後、平成21年に京都府立医科大学助

教に採用されました。そして、平成23年に創薬科学系薬品化学分野助教、次いで平成28年に共同利用機器センター助教として教育・研究に携わって参りました。

これまでに、教育面では薬品合成化学Aや薬学総合演習などの科目を担当させていただいてきました。中でも薬品合成化学Aにつきましては、薬品製造学分野の先生方と分担させていただいており、この場を借りて深謝申し上げます。研究面では疾患関連蛋白質阻害剤と天然有機化合物に基づく研究に携わってきております。

今後は、主に担当している質量分析計や元素分析計などの管理運営と共に上記の教育・研究にも取り組んでいく所存です。これまで同様、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本学の多彩な人材輩出

－ 6年制の就職・進学実績を振り返る －

厚生労働省が2014年12月31日現在でまとめた医師・歯科医師・薬剤師調査では、日本には約29万人の薬剤師がいます。そのうち半数以上の16万人が薬局、5万5千人が病院・診療所で医療に従事しています。一方、医薬品関係企業には4万3千人、行政機関で7千人と、様々な領域で薬剤師が活躍しています。

人口の4割近くを65歳以上が占める超少子高齢化社会の到来を控えて、在宅医療等を始めとする地域医療推進のために、地域包括ケアシステムの構築が求められています。また、製薬業界ではアンメットメディカルニーズを満たす新しい薬剤の研究開発や、iPS細胞等による再生医療の進展にしのぎを削っています。医療は大きな変革の時代を迎え、薬剤師にも多種多様な役割を果たすことが望まれています。

薬学6年制教育への期待が大きくなるなか、本学で6年間ファーマシスト・サイエンティストを目指す教育を受けた卒業生は、臨床や医薬品関連業界、行政といったそれぞれの立場で医療の改革に向け取り組んでいます。今後ますます成長して、様々な領域でリーダーシップを発揮し、更に飛躍されると確信しています。

進路支援部長 柴田 敏之

Feature article.

進路支援部

■ はじめに

2006年から開始された薬学6年制教育は10年が経過しました。本学からも2016年3月には6期生が卒業され、これまでに6年制薬学部として約2000名の卒業生を輩出してきました。

6年制薬学部出身者には、より高度で幅広い専門知識、それらに基づいた思考力と行動力、そして高い倫理観を伴う人間性等が求められています。具体的には、病院・診療所・保険薬局等においてチーム医療を担うほか、服薬指導や薬歴管理、薬害防止のためのリスクマネジメント等を行い、一方で、研究者として企業、研究機関、行政、教育研究等で活躍できる道にもつながっています。

本学では臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保険・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とし、教育を行ってきました。実際に本学で6年間の学びを経た学生が、どのように自分自身の進路を考え、選び、進んでいったのか、本学の6年間の就職・進学等の軌跡を振り返ります。

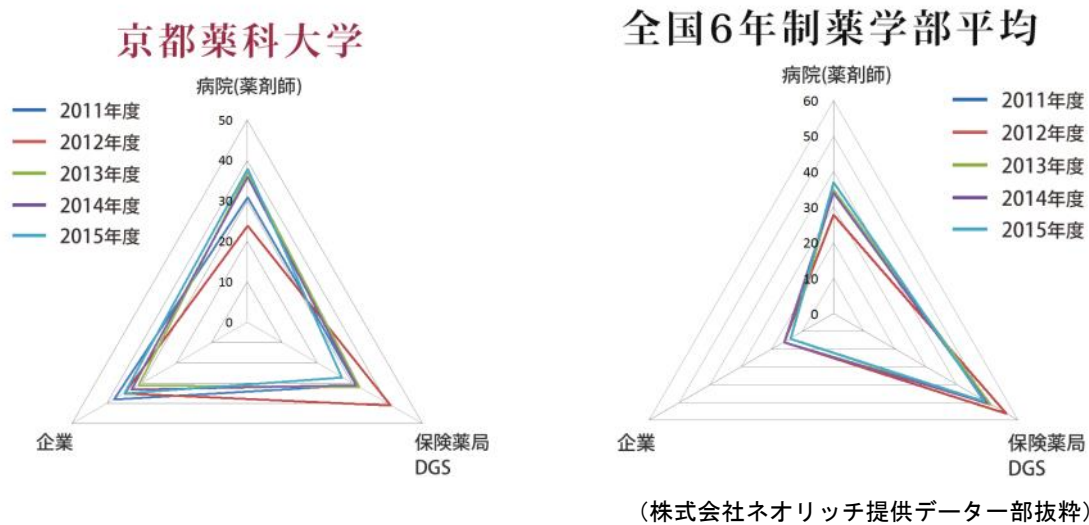
■ 本学卒業生の進路

本学6年制卒業生は様々な分野にバランス良く進んでいる点で特徴的であり、企業：病院：薬局：その他の就職等比率は、概ね3：3：3：1の割合で推移しています。^{*1}入学してすぐに実施するアンケートでは進路先の希望として、例年、病院薬剤師が最も多くみられます。しかし、6年間の学生生活において、様々な刺激を受けつつ学んでいく中で、進路決定時には毎年前述のような割合となっています。特に企業就職者は、薬学部としては全国平均と比べ非常に高い比率となっています（次頁の図参照）。

このような特色の背景には、創立130年を超える歴史の中で22,000人以上の人材を多岐にわたる職種・分野に送り出し高い評価を得ていること、そしてそのような諸先輩方の姿を6年間の学びの中で実際に目にする機会が多くあることが大きな要因として考えられます。

^{*1} 企業：医薬品製造業、CRO、SMO、その他一般企業等
薬局：保険薬局、ドラッグストア
その他：公務員、進学等

就職先のバランス（％）



（株式会社ネオリッチ提供データ一部抜粋）

【企業】

医薬品製造業においては、MRだけでなく臨床開発職や研究職も継続的に輩出しています。昨年には、医学・科学の高度な専門性、学術知識を持ち、医学的・科学的な面から製品の適正使用の推進、製品価値の最適化などを支援するMSL（メディカル・サイエンス・リエゾン）職としても採用されています。近年では化粧品・化学・食品業界などにも研究開発職等で就職しています。長期実務実習を経験し、予防医学の観点から卒業後を考える学生が多くなっているようです。

【企業系の進路先】

区分	2012年3月卒		2013年3月卒		2014年3月卒		2015年3月卒		2016年3月卒		2017年3月卒	
	卒業生	320名	卒業生	356名	卒業生	325名	卒業生	366名	卒業生	363名	卒業生	360名
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
企業	111	34.7	110	30.9	85	26.2	105	28.7	111	30.6	105	29.2
製薬企業	70	21.9	67	18.8	64	19.7	72	19.7	65	17.9	56	15.6
MR	35	10.9	45	12.6	37	11.4	39	10.7	35	9.6	31	8.6
臨床開発	15	4.7	2	0.6	5	1.5	5	1.4	5	1.4	5	1.4
研究	7	2.2	12	3.4	10	3.1	11	3.0	12	3.3	9	2.5
内勤	6	1.9	6	1.7	6	1.8	9	2.5	6	1.7	8	2.2
生産	7	2.2	2	0.6	6	1.8	8	2.2	7	1.9	1	0.3
MSL											2	0.6
CRO・SMO	23	7.2	27	8.4	12	3.8	20	6.3	34	10.6	33	10.3
その他企業	18	5.6	16	5.0	9	2.8	13	4.1	12	3.8	16	5.0

【病院・薬局等】

病院では、2012年度診療報酬改定を機に病棟薬剤師業務がより本格化しています。一方、保険薬局・ドラッグストアでも、2017年度にかかりつけ薬剤師制度が始まりました。高齢化社会において、地域医療に深く関わる薬剤師が求められています。さらに最近では、医療費の高騰を背景にセルフメディケーションの機運も高まり、OTC医薬品が注目されています。このように、臨床に携わる薬剤師にはより一層の活躍が期待されています。

【臨床系の進路先】

区分	2012年3月卒		2013年3月卒		2014年3月卒		2015年3月卒		2016年3月卒		2017年3月卒	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
薬局等販売業	90	28.1	121	34.0	89	27.4	98	26.8	86	23.7	113	31.4
保険薬局	75	23.4	99	27.8	80	24.6	76	20.8	62	17.1	77	21.4
ドラッグストア	15	4.7	22	6.2	9	2.8	22	6.0	24	6.6	36	10.0
病院	93	29.1	97	27.2	103	31.7	114	31.1	122	33.6	91	25.3
大学病院	14	4.4	20	5.6	15	4.6	22	6.0	16	4.4	19	5.3
大学病院研修生	5	1.6	2	0.6	2	0.6	3	0.8	2	0.6	1	0.3

【公務員】

公務員への就職も、学生にとって魅力的です。最近では中央省庁の国家公務員総合職や厚生労働省地方厚生局麻薬取締部、警視庁及び道府県警察本部科学捜査研究所などへ進む卒業生も見られます。

【公務員の進路先】

区分	2012年3月卒		2013年3月卒		2014年3月卒		2015年3月卒		2016年3月卒		2017年3月卒	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
公務員	9	2.8	16	4.5	18	5.5	14	3.8	18	5.0	21	5.8
地方公務員	9	2.8	16	4.5	18	5.5	13	3.6	16	4.4	19	5.3
国家公務員							1	0.3				
科捜研・麻取									2	0.6	2	0.6

【進学】

大学院に関する情報は入試課と協力しながら提供しており、進学者は少しずつ増えてきています。

本学の4年制大学院（薬学専攻博士課程）では、さらに高度な学識と研究能力を身につけ、指導的な臨床薬剤師、国際的に活躍できる基礎および臨床薬学研究者の輩出を目指しています。

進路支援部としても、学部生に対する情報提供とともに博士課程在籍者に対する支援を更に強化していきたいと考えています。

【大学院進学先】

区分	2012年3月卒		2013年3月卒		2014年3月卒		2015年3月卒		2016年3月卒		2017年3月卒	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
大学院進学	10	3.1	8	2.2	9	2.8	9	2.5	12	3.3	15	4.2
京都薬科大学	7	2.2	4	1.1	7	2.2	7	1.9	9	2.5	9	2.5
他大学	3	0.9	4	1.1	2	0.6	2	0.5	3	0.8	6	1.7

■ 進路支援課の取組み

進路支援課では、1年次から3年次までを「気づき」、4年次から6年次までを「スキルアップ」ならびに「マインド醸成」のステージとし、各年次のレベルやニーズに応じた「キャリア支援プログラム」（次頁の表参照）を提供しています。

「気づき」のステージでは、多種多様な業界で活躍されている卒業生の方々の話を聞く機会を早期から多く設け、自身の将来像を明確にイメージできる事を目指します。また、自己理解や職業観に関する「気づき」の場も多く提供することで将来の進路を主体的に考える力を養います。

「スキルアップ」ならびに「マインド醸成」のステージでは、自身の進路決定に必要な知識やスキルを身に付ける事を目的として、多様な実践的支援プログラムを提供します。インターンシッププログラム、実際の就職活動の進め方やスケジュールに関するガイダンス等を通して、それぞれが希望する進路を掴み取るための支援を行っています。

また、進路支援課では進路に関する不安や疑問を解消し、有意義に活動が進められるよう、個別面談を随時受け付けています。進路相談、エントリーシート・履歴書添削、小論文添削、面接練習など、学生の皆さんの進路実現に向けたきめ細かなサポートを行っています。

(参考) 2017年度キャリア支援プログラム スケジュール

(*) 印：学業に支障がない場合に限り、他学年も参加することができます。

主対象 学年	年	月	日	曜	プログラム	講師/担当
2	2018	1	29	月	薬学生の進路を知る 進路理解ガイダンス	進路支援課
2～4	2017	9～11	平日	月2回	今後の学生生活と進路を考える ランチョンガイダンス	進路支援課
4	2018	3	22	木	就職活動スケジュールガイダンス	進路支援課
					社会におけるコミュニケーション&マナーセミナー	マイナビ
4～5	2017	8	19	土	卒業生・在学生交流会	2014年度卒業生
5	2017	4	8	土	インターンシップ 制度ガイダンス	* 進路支援課
					インターンシップ 応募ガイダンス	* 進路支援課
		4	10	月	公務員試験対策講座 開講事前ガイダンス (同内容)	* 東京リーガルマインド (LEG)
		4	12	水		
		6	17	土	公務員理解セミナー	* 東京リーガルマインド (LEG)
		6	下旬		公務員試験対策講座 開講(2018年3月まで)	* 東京リーガルマインド (LEG)
		6	30	金	就職活動準備ガイダンスⅡ(Ⅳ期実習学生対象)	進路支援課
		7	27	木	社会人としての身だしなみ・印象力強化セミナー	資生堂
		7	28	金	就職活動準備ガイダンス	進路支援課
					インターンシップ 事前ワークショップ	* 進路支援課
		10	中旬		希望進路ヒアリング 開始(2017年12月まで)	進路支援課
					SPI(適性検査)対策セミナー	リクルートキャリア 他
		12	13	水	就職活動ガイダンス(企業系)	進路支援課
					採用選考対策ガイダンス(企業系)	進路支援課
		12	14	木	社会人としての身だしなみ・印象力強化セミナー (Ⅱ/Ⅳ期実習学生対象)	資生堂
	2018	3	3	土	就職活動ガイダンス(臨床系)	進路支援課
					採用選考対策ガイダンス(臨床系)	進路支援課
		12	25	月	職種理解セミナー	現役社員 等
		3	4	日	学内合同説明会	* 薬局・行政 等
		4	8	日		* 企業
						病院
6	2017	4～5	平日		選考対策ランチョンガイダンス	進路支援課



進路理解ガイダンス



インターンシップ事前ワークショップ



就職活動準備ガイダンス



学内合同説明会

■おわりに

医療の高度化・複雑化に伴い、医薬品についてはより高い安全性の確保が要求されています。臨床現場における薬剤師の職能は拡大しており、かかりつけ薬局を中心とした地域医療の質の向上に貢献することも求められています。いずれの領域においても、ファーマシスト・サイエンティストとして活躍の場が広がっております。今後も引き続き各業界関係者の皆様方よりご指導・ご意見を賜りながら、学生が卒業後を見据えた活動に積極的に取り組めるように様々な機会提供をおこなっていきます。学生の皆さんには本学での学び・経験を活かし、自らが希望する進路を見出し、素晴らしいキャリアを築いていけることを願っています。

第4回 卒業生・在学生交流会を開催しました！

Event

進路支援課

2017年8月19日（土）に「卒業生・在学生交流会」を開催しました。「卒業生・在学生交流会」は、卒業生には本学との絆を強めることを、在学生には職種理解を深めることを目的としています。

第4回となる本年は、主に2015年3月卒業生（6年制4期生）を中心に参加いただきました。

当日は晴天に恵まれ、卒業生21名、4年次生10名、5年次生40名、教育職員27名と多数ご出席いただき、盛況に会を終えることができました。

第1部の座談会では、職種毎に分かれた卒業生（1～4名程度）が各々8名程のグループに分かれた在学生に、現在の進路を選んだ理由や業務内容などについて、ざっくばらんにお話いただきました。

第2部の茶話会からは教職員の方々にもご参加いただき、お互いの絆を深めることができました。在学



茶話会の様子

生にとっても、先輩方へ直接質問ができる貴重な機会となり、自身の進路を考える上で非常に有意義な時間となったようです。

他方、交流会の実施に先立ち、卒業生（6年制4期生）には、本学のホームページ等を活用した「卒業生アンケート」に協力していただきました。卒業生366名中163名（回答率：44.5%）から回答を得ることができました。大学をより良くするためのご意見・ご提案も多くいただいております。今後の本学の取り組みに繋げていきたいと考えています。

最後になりましたが、「卒業生・在学生交流会」ならびに「卒業生アンケート」にご協力を賜りました卒業生、在学生、教職員の皆様に心よりお礼申し上げます。



座談会の様子

水中でぶっぶっ

— 第4話 —

めずらしくも「神（オミキニゴウ）のお告げ」が何度かあった。第4話にむけて、あれ書いたら、こう書いたらというお告げである。多忙の合間を縫って（ヒマニアカシテ）、いくつか書いた。が、翌日の新聞に「30年」の見出し広告。ああ、次回（KPU News新年号）に回せば、31年になり、鉄人28号のような中途半端な数になる。で、決意した。サラダ記念日（俵万智著）出版30年記念誌、「俵万智：史上最強の三十一文字（KAWADE 夢ムック 文藝別冊）」である。古典的短歌の解釈は私にとって難しい、古典的短歌は色を重ね、重ねて、描かれているようなものであり、それぞれの色を見出し、その色を置いたわけ、相乗を見出さねばならない。いっぽう、「現代短歌」は単色でストレートに描かれたものが多い。それを「前衛短歌」ともいうらしい。俵万智さんはご存知のように話し言葉（口語）で、心情を表現している。言うなれば十二単（じゅうにひとえ）をお召ではないのですよね。サラダ記念日から2首“思い出の一つのようでそのままにしておく麦わら帽子のへこみ”“嫁さんになれよ”だなんてカンチューハイ二本で言ってしまっている。にやっとしたり、カンチューハイ二本と失笑したり、そんな気分になる。文藝別冊には、俵万智と同年代の歌人・穂村弘との秀逸な対談が掲載されている。穂村弘が優しい言葉で俵万智さんを身ぐるみ剥いてゆく。十二単じゃないから楽なもんだということではない。言葉によって剥いていったところ、俵万智の強い母性があった。「サラダ記念日」、そしてそれに続く俵万智の短歌は、口語を使って平易な表現で作られた現代風の薄っぺらな歌ではない。対談はそれを明らかにした。私にはエロスやエロティシズムの哲学的意味はよく分からないが、雑誌特有の対談写真は無意味であるほどに真のエロティシズムを醸し出している対談であった。

最後に短歌と言えば、「近代短歌」「現代短歌」（ともに永田和宏著、岩波新書）。梨でも食べながら“三十一文字”で描かれた多彩な絵を楽しむのも一興。

学長 後藤 直正

今年で3年目となったMCPHS*大学サマープログラムは、8月3～16日に実施され、2、3年生の男女15名が私を含む引率教員3名（中村誠宏准教授、河下映里助教）と共に参加しました。

本プログラムは、英語力を身につけることはもちろんのこと、「薬学」をキーワードに、現地の教職員や学生との交流を通して、より一層、薬学を学び実践することの喜びを感じられるように組んでいます。

午前是一般英語の授業、午後はアカデミックプログラム（全てMCPHS大学の先生によって英語で行われる）が実施されました。今年度は特に、メディシナルケミストリー、生理学、薬理学、薬物動態学、臨床薬学等の薬学専門科目の講義時間を多く組み込んだプログラムとしました。講義以外には、①Dana Farber Cancer InstituteおよびBrigham and Women's Hospital (at Harvard Medical Area) の薬剤部見学、②St. Vincent Hospital (in Worcester) 見学、③コミュニティーファーマシーの調剤室見学、④コミュニティーファーマシーにてOTC薬について学ぶ、⑤MCPHS大学内模擬薬局にて処方解析および服薬指導実習（MCPHS大学6年生とロールプレイング）、⑥プレゼンテーション2回、⑦MCPHS大学研究室見学、⑧MCPHS大学の教職員・学生との交流会等があり、平日の7日間は英語と薬学漬けの毎日でした。週末には、ボストンの街並みを散策し、ハーバード大学やMIT大学の見学、ボストン美術館やサイエンスミュージアムにも行き、それぞれが様々なことを感じ考えたことと思います。

「薬学」が世界共通であること、英語力およびコミュニケーション力は世界共通の薬学を学び実践する上での必須のツールであることを学ばれた皆さまが、今後この経験を活かし、勉学に励まれることを期待しています。（文責：天ヶ瀬 紀久子）

*Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences（所在地はマサチューセッツ州ボストン市）



修了証が授与されました



MCPHSの学生と服薬指導実習を終えて



ボストン空港にて

■ 3年次生 植野 文貴

初めての海外ということで英語が聞き取れるのかな、という不安を抱えながら日本から13時間かかり、たどり着いた場所は本当に魅力的だった。空港に降り立つと日本とは違い湿気が少なく過ごしやすい気候だった。

最初の授業は特に緊張した。MCPHSの先生が聞き取りやすいスピードで話してくれているが、まだアメリカに來たばかりで英語に慣れなくて授業についていくのが大変であった。土日の休みは、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学のキャンパスツアーに参加した。現地の学生による説明の英語のスピードはとても速く、聞き取るのに非常に苦労したが良い経験だった。また、キャンパスは京薬と違いとても広大な土地にいくつもの建物があり、さすがアメリカだなと感じた。また、日本にいたときから楽しみにしていたレッドソックスの試合観戦もすることができた。球場自体も日本のものとは作りが異なっていたり、得点を取ると隣にいた方とハイタッチをしたりとても楽しむことができた。



チャールズリバーをバックに男子3人！（筆者は右）

病院見学や薬局見学では説明してくださる薬剤師の方に積極的に質問をすることで、質問内容以上のことを教えて頂き非常に勉強になった。アメリカの薬剤師の業務内容の多さや、テクニシャンという薬剤師の補佐をする役割の職種があることに驚き、日本での薬剤師の地位よりもはるかに高く評価されているように感じた。それとともに日本の薬剤師はなぜアメリカほど評価されていなのだろうか疑問に

思った。

授業も終盤に近づくにつれ、毎日の英語の授業のおかげで、少しずつ聞き取れるフレーズが増え、最初の授業の時よりも理解できることが多くなり積極的に発言しようと思うことが多くなった。あつとい

う間に過ぎた2週間は、初めて日本とは異なる文化に触れた刺激的な日々の連続であり、この留学で得た様々な知識と英語力をより一層向上させるためにも、もっと幅広い視野を持って今後の勉学に励みたい。

おかざき さやか
■ 2年次生 岡崎 彩香

私が今回の留学に志願した理由は、日米の医療制度の違いを学びたく、消極的な自分を変えたかったという思いからです。平日は夕方まで授業があり、空き時間や土日は観光名所を巡るというハードスケジュールでしたが、その分得たものは数え切れないほどです。まず私は授業スタイルに刺激を受けました。授業では発言の機会が多くあり、互いの考えを共有します。自分から意見を述べることやミスをすることへの恥ずかしさは一切なくなり、自然と積極的になれた気がします。また毎日の英語の授業は、自分の固定化していた学習方法を見直す良いきっかけとなりました。休日には仲間と買い物に出かけたり、食事をしたり、楽しく過ごせました。フリーダムトレイルを歩いてボストンの街並みと風土を体感できたことも素晴らしい思い出です。

さらに、病院・薬局見学を通して日米の薬剤師や薬局の相違について学びました。日本では薬剤師が調剤や薬歴管理など全ての業務を担いますが、米国では薬剤師が処方監査に従事し、テクニシャンが調剤を行います。米国薬剤師はワクチン接種業務も担うことから、その権限や責任は極めて大きいものだと感じました。1日に扱う処方箋の数が300~400枚と聞き驚きましたが、時短化・効率化を図るための様々な工夫がなされていました。



MCPHSの学生と（筆者は右）

そして米国特有の問題や取り組みで特に印象的だったのは、オピオイドの多用とがん告知についてです。米国では薬物中毒による死亡者が多く、薬物中毒患者

の4分の1は、鎮痛薬として用いるモルヒネ/オピオイド系薬物による中毒だそうです。また、がん告知は必ず行い、その上で慎重に治療法や薬の説明をします。患者の完全な理解を目的とし、世界各国の言語や宗教に対応していると聞きました。

このように実際の現場で学んだこと、肌で感じたことは、今後日本の医療に目を向ける際の新たな視点に繋がると思います。私は是非これらを共有する機会を持ち、薬剤師としての



MCPHSの学生と（筆者中央）

の資質の向上と医療の発展に役立てていきます。

わだ そのみ
■ 2年次生 和田 園生

毎日たくさんの刺激を受け、素晴らしい経験ができた2週間でした。

平日は授業や見学、休日は観光というスケジュールでした。授業をしてくださった先生方は、私達が理解できるようゆっくり話してくださったり、何度も理解が追いついていないかを確認していただいたり、とても親切な方ばかりでした。最初の授業では、私達のほとんどが発言をしなかったのですが、徐々に全員が積極的に発言するようになっていきました。私自身も、いつもの自分なら受け身で聞いているだけになってしまいがちですが、実際に発言をして授業に参加することで先生の問いかけに対して

常に自分の意見を考え、意識するようになっていき、その分授業内容を楽しむことができました。

病院見学、薬局見学では日本とアメリカの薬剤師の違いを目の当たりにしました。様々な違いがありましたが、私が思う二つの大きな違いを例に挙げようと思います。一つ目は、アメリカにはテクニシャンという調剤技師がいるということです。アメリカの病院では一フロアに一人の薬剤師、一つの薬局に一人の薬剤師といったように一人の薬剤師にかかる責任は大きなものとなります。テクニシャンはそんな薬剤師のもとで調剤等の業務の補佐をしていました。二つ目は、アメリカの薬剤師はワクチンの注射ができるということです。患者は薬局でワクチン接種の予約をすれば、薬剤師によるワクチン接種を受

けることができます。現在アメリカで信頼されている職業の第2位が薬剤師であると聞いたことがあったのですが、見学を通して薬剤師の仕事の重要さ、地位の高さを実感し、とても納得できました。

留学を通して、自分から積極的に行動をすることが大切だということを身に染みて感じました。留学に行くという機会があっても、そこで自分が何もしないとなかなか成長することはできないと思います。今回は意識の高いメンバーに恵まれ、更に現地の学生さんや先生方と交流する機会がたくさんあったことで、自分からどんどん行動することができ、成長できたと思います。学んだ知識、姿勢を将来に活かしていけるよう、これからも英語と薬学の勉強に励みたいと思います。

最後に、引率の先生方をはじめ、留学を支えてくださった全ての方々に心から感謝しています。ありがとうございました。



グローバルレセプションでMCPHSの先生方と（筆者中央）

大学コンソーシアム京都主催

「英語で京都をプレゼンテーション」を受講して

Report.

私は昨年度、本学のMCPHS大学サマープログラムを経験し、帰国後も英語力向上や教養のため、目標を持って何か新しいことにチャレンジしたいと考えていました。大学コンソーシアム京都が主催する本講座は、日本の伝統文化を実際に体験でき、他大学の学生とも交流できる点が魅力的で受講を決めました。

全6回（各回3.5時間）の講座では、京都や日本に関するクイズ、宗教や教育等に関して英語で集団討論、茶道・華道・能の体験、プレゼンを行いました。グループプレゼン（20分間）と個人プレゼン（6分間）では、私はそれぞれ「京都における教育」と「祇園」について英語で発表しました。グループプレゼンでは、1位を獲得することができ、個人プレゼンでもネイティブの留学生から良い評価をいただきました。



華道体験の様子（筆者は右端）

3年次生 太田千佳子



イタリア人留学生とのセッション（筆者は中央）

放課後や土日の発表準備は大変でしたし、レベルの高い発表が多くて緊張しましたが、ボストンでの数多くのプレゼン経験を今回活かすことができたと感じています。

受講して得たものは、英語での表現方法だけに留まらず、日本や京都、自分たちの事に関してもっと興味を持ち、自発的に学ぶ姿勢が必要であるということです。一緒に参加していた他大学の学部も年齢も様々な学生は、自分の専門分野だけでなく、英語や他分野の勉強への意識が高く、大変刺激を受けました。私は昨年度の留学経験が本講座の受講に繋がったので、留学経験を一過性のものにせず次のステップへの足掛かりにすることも大切だと思います。

これからも薬学の勉強だけでなく英語力向上にも努め、他国の方々と自分の表現でコミュニケーションが取れる魅力的な薬剤師になりたいです。

学生時代の経験

ゆめの
北原 夢乃



2014年 学部卒業
(薬物治療学分野)
バイエル薬品株式会社
メディカルアフェアーズ本部
腫瘍・血液領域
メディカルサイエンスリエゾン

皆さんは、メディカルアフェアーズという職種をご存知でしょうか。私は卒業後に今の会社に入社して3年間、メディカルアフェアーズ本部のメディカルインフォメーション（MI）という仕事をしていました。

皆さんもご存じの通り、すべての薬にはベネフィットだけでなく必ずリスクがあり、誰もがベネフィットだけを得られるわけではありません。そのため例えば、この薬をどのような患者さんに使えばリスクを最も抑えられるのか、どのタイミングで開始すればベネフィットを最大限引き出せるのか、などといったことを考える必要があります。この「患者さんの利益を最大化しリスクを最小化する」という使命を持つのがメディカルアフェアーズです。この使命のためにMIでは、治験データの他、プロトコルが厳格な治験では十分に検討できなかった患者集団や条件での効果・安全性等を検証した実臨床データ、安全性情報などの

幅広い情報を医療現場へ発信する仕事をしています。

私は学生生活の半分を研究室で過ごしましたが、この時間は他には代えられないかけがえのない経験でした。研究室では実験や論文を勉強し、その中で自然とデータの解釈の仕方を学びました。論文や学会発表から仕入れた数々のデータを扱うMIでは、研究室での経験が自信となり、ベテラン社員の中でも怖気づかずに提案をしたり新たな試みを始めたりと積極的に仕事に挑戦できました。また、メディカルアフェアーズではマーケティングや開発、グローバル本社から国内の医師まで、社内外の多くの人を巻き込んで物事を進める必要があります。これがとても難しいのですが、その際にも、学生時代に先生、同期生や先輩後輩など多くの人と関わって研究やイベントを成し遂げた経験が活かせていると感じています。

現在は、先月からメディカルアフェアーズ内のメディカルサイエンスリエゾンに異動となり、新しい仕事に日々奮闘していますが、今感じているのは、学生時代に取り組んだ経験から自分の強みの一部を得たということです。皆さんも是非短い学生生活の間に、どんなことでも良いので真剣に取り組んだと胸を張って言える経験をしてみてください。その経験は今すぐではなくとも、必ず社会人になってから自分の強みとなって生きてくるはずです。

第11回 自治会執行部主催 セタ企画

今年も7月初めから七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入り口に笹を設置し、愛学館を訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。期間は短かったのですが、勉強や部活動、私生活のことなどについて書かれた短冊がたくさん見られ、多くの方に参加していただけたことを実感し、嬉しく思います。

七夕企画実施にあたりご協力頂いた学生課、教育後援会の方々、並びに企画に参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。皆様の願い事が成就されますよう、自治会執行部一同祈願申し上げます。



短冊に願いを書く学生たち

■ 2017年度教育後援会寄贈図書

今年も教育後援会から図書を寄贈していただきました。
小説やエッセイ、旅行書などの全174点が入り、図書館カウンター前に並んでいます。
どうぞご利用ください。

タイトル	編著者
人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか？ 最強の将棋AIポナンザの開発者が教える機械学習・深層学習・強化学習の本質	山本一成
影裏	沼田真佑
月の満ち欠け	佐藤正午
素敵な日本人―東野圭吾短編集	東野圭吾
京都幕末史跡案内―志士たちの夢の跡を訪ねて	イカロス出版
スタンフォードでいちばん人気の授業	佐藤智恵
マジ文章書けないんだけど ―朝日新聞ベテラン校閲記者が教える一生モノの文章術―	前田安正
プラタモリ 1～8	NHK「プラタモリ」制作班
ちずたび 京都と出会う自転車BOOK 市内版	環境市民
バッタを倒しにアフリカへ	前野ウルド浩太郎

ほか、全174点

開 館 日 程

2017年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2017年11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2017年12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備

休館日

- ・日曜日・祝日
- ・京葉祭(11/3,11/4,11/5)
- ・推薦入試(11/18)
- ・OSCE(12/16,12/17)
- ・冬季休業期間(12/23～1/9)の土曜日
- ・年末年始休業(12/27～1/8)
- ・館内整備(10/31,11/30,12/26)

備考

- ・オープンキャンパス施設見学(10/29)

第102回薬剤師国家試験（6年制薬学の6回目）が2017年（平成29年）2月25日、26日に実施されました。前回に比べ、全体の合格率は低下しましたが、新卒ではほぼ同程度の合格率となりました。難易度に関しましては適切で、読解力、思考力、応用力を問う良問が多かったと判断されています。前回からの試みである薬学実践問題における4連問の他に、今回、薬学理論問題において「病態・薬物治療」と「薬理」の4連問が出題され、一定の評価を受けています。このように、科目の壁を越えたより実践的かつ複合的な出題が今後増えることが予想されます。薬剤師国家試験は、社会が求める薬剤師像に合った、また国が推進している地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割など医療現場において必要な知識を問う6年制薬学に相応しい内容に変化していると言えます。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男		女	
出願者	14,701名	6,175名	42.00%	8,526名	58.00%
受験者	13,243名	5,435名	41.04%	7,808名	58.96%
合格者	9,479名	3,690名	38.93%	5,789名	61.07%
合格率	71.58%	67.89%		74.14%	

(2) 男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制 新卒	出願者	9,417名	3,677名	39.05%	5,740名	60.95%
	受験者	8,291名	3,167名	38.20%	5,124名	61.80%
	合格者	7,052名	2,692名	38.17%	4,360名	61.83%
	合格率	85.06%	85.00%	85.09%		
6年制 既卒	出願者	4,736名	2,168名	45.78%	2,568名	54.22%
	受験者	4,515名	2,020名	44.74%	2,495名	55.26%
	合格者	2,295名	939名	40.92%	1,356名	59.08%
	合格率	50.83%	46.49%	54.35%		
その他	出願者	548名	330名	60.22%	218名	39.78%
	受験者	437名	248名	56.75%	189名	43.25%
	合格者	132名	59名	44.70%	73名	55.30%
	合格率	30.21%	23.79%	38.62%		

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	663名	640名	540名	84.38%	477名	469名	438名	93.39%	67名	62名	36名	58.06%	119名	109名	66名	60.55%
公立	291名	282名	236名	83.69%	220名	217名	201名	92.63%	34名	29名	15名	51.72%	37名	36名	20名	55.56%
私立	13,746名	12,320名	8,703名	70.64%	8,720名	7,605名	6,413名	84.33%	4,635名	4,424名	2,244名	50.72%	391名	291名	46名	15.81%
本学	435名	397名	352名	88.66%	391名	360名	330名	91.67%	31名	29名	22名	75.86%	13名	8名	0名	0.00%

さて、表1のとおり、今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。14,701名出願し受験者総数13,243名中、合格者は9,479名（合格率71.58%）でした。前回の合格率が76.85%でしたので、約5ポイント低下したことになります。6年制新卒の全国合格率は85.06%と僅かに低下しました（前回：86.24%）。また、6年制既卒者の合格率は50.83%と新卒に比べてかなり低く、前回（67.92%）に比べて約17ポイント低下しています。この結果は、年々医療に軸足を置いた、より実践的な問題へと変化していること、そして何より卒後1年目で合格することが如何に重要であることを意味していると言えます。本学では、新卒者360名が受験し合格者は330名（合格率91.67%）、6年制既卒者は29名受験し合格者は22名（合格率75.86%）、4年制既卒者は8名受験し合格者は0名、総合合格率は88.66%（全国71.58%）で、全国総合10位（73校中）でした。この学年は、CBT等の成績から大変心配された学年でありましたが、ここまで学年全体の成績が伸びた要因として次のことが挙げられます。1) 各自危機意識を持って学修に取り組んでいた、2) 2016年度の薬学演習（対象者：実力試験および評定平均（専門必修講義科目の学業成績）の下位学生）では主体的な学びを促すべく、事前に課題および問題作成を課した、3) 講義後、その日に学んだ内容に関する演習問題に主体的に取り組んでいた、4) 学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等）を、当センターと分野・センター間で共有し、細やかな指導ができていた、5) 当センターでの質問対応や個別の学修相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談による現状の把握と意識改革を行うなど総合的な学修フォローアップを行ったこと。

次に、今春卒業した本学6年制6期生の評定平均と国家試験合格との関係を調べてみました。表2に示しますように、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業率および合格率も低下傾向にあるのはこれまでと同様です。このことは、1年次からの日頃の学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。また、評定平均85点以上の卒業生は全員合格していますが、80点台でも卒業留年および不合格となった学生がいるのも気になることです。

表2. 評定平均と可否との関係

評定平均	学生数	卒業者数	合格者	不合格者	卒業・合格率 (%)
95点以上	1	1	1	0	100
90点以上95点未満	9	9	9	0	100
85点以上90点未満	18	18	18	0	100
80点以上85点未満	47	46	45	1	95.7
75点以上80点未満	70	69	66	3	94.3
70点以上75点未満	115	112	106	6	92.2
65点以上70点未満	127	103	84	19	66.1
60点以上65点未満	5	2	1	1	20

本学6年制6期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力に協力を要請したところ、360名の受験者中296名（入力率82.2%）の協力がありましたが、前回（95.3%）に比べて入力率の大幅な低下がみられました。これは、試験の手ごたえが今一つであり、自己採点をしたものの入力をしていない、あるいは自己採点すらしていない学生が予想以上に多かったためと推察されます。表3に示しますように、総合正答率は73.39%（5期生75.7%）と昨年度に比べて約2ポイント低下しました。平均正答率30%未満の問題が21題あり、その内訳は必須問題で1題（前回1題）、薬学理論問題で12題（前回9題）、薬学実践問題で8題（前回8題）でした。また、科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物の一般問題（薬学理論問題、薬学実践問題）が他の科目に比べて正答率が低かったことから、難易度が高かったと言えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	7	4	10	8	8	7	5	62
平均点	12.8	8.1	13.8	13.3	12.5	9.5	8.7	78.6
最高点	15	10	15	15	15	10	10	88
平均正答率	85.1%	80.6%	92.0%	88.7%	83.1%	94.8%	86.9%	87.3%
学内全体（新卒）								86.59%
全国（新卒）								85.46%

問題区分	理 論 問 題						
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	合計
問題数	30	20	15	15	15	10	105
最低点	5	6	6	3	5	1	48
平均点	15.4	12.9	12.2	11.0	10.0	6.2	67.7
最高点	25	19	15	15	14	10	93
平均正答率	51.3%	64.3%	81.6%	73.6%	66.8%	61.6%	64.5%
学内全体（新卒）							63.50%
全国（新卒）							60.02%

問題区分	実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	9	82	146	341
最低点	3	2	5	2	4	2	46	77	195
平均点	8.3	6.2	8.6	7.4	7.5	6.6	62.7	107.3	253.6
最高点	15	9	10	10	10	9	74	130	300
平均正答率	55.5%	61.6%	85.9%	74.2%	74.8%	73.6%	76.5%	73.5%	74.4%
学内全体（新卒）								72.36%	73.39%
全国（新卒）								70.41%	71.18%

＜第103回薬剤師国家試験に向けて＞

次の国家試験も難易度が下がること無く、6年制薬学に相応しい内容が出題されると予想されます。まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが肝要です。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に理解しながら勉強することが大切です。今、成績がよくない、あるいは先行き不安であると感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。普段から、友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。2016年度より薬学教育研究センターで実施しています「お昼の学びサークル」（詳細については、当センターのホームページにアクセスしてみてください）を主体的に学ぶきっかけとし、学びの輪を広げていただきたいと思いますと考えております。各教科の内容に関する質問についてはオフィスアワーを、また学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。何事も早めの行動が重要です。悔いのない充実した学生生活を送るために！

本学では、優秀な人材の育成及び、学習成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度より、奨学金制度を一部拡充し、研究活動やボランティア、クラブなどの課外活動においても、模範となる活動を修めた学生に給付・表彰を行う奨学金を新設いたしました。結果、従来の成績優秀者及び遠隔地出身者への給付をあわせ、合計133名（入試成績優秀者10名、大学院入試成績優秀者3名、学部成績優秀者75名、遠隔地出身者30名、研究・課外活動優秀者15名）の奨学生が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、7月10日（月）に執り行われ、土屋理事長から表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、ご父母（教育後援会会員）の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に誌面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

入試成績・成績優秀者						
学部新入生	学部在学学生					
	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
上野 紗知						
岡本 仁志	赤井 里冴	安藤 実紗	池田 沙織	川田 奈実	浅田 裕美子	
黒川 真由	池上 晴香	内海 慈乃	岩崎 年示	岸本 真里子	足尾 真美	
小林 聖馬	井上 拓美	太田 千佳子	岡田 麻里奈	久保 薫子	飯間 莉紗	
中井 友梨	大嶋 智子	亀岡 紗綾	奥 大輝	小堀 葉奈	梅原 祐奈	
西川 茉緒	梶原 穂乃華	岸本 滝世	川崎 那奈	齋藤 菜月	江見 結花	
松岡 萌々子	加屋 優希	黒崎 楓夏	久保田 知沙	柴田 かおり	面川 杏	
山下 実香子	小松 春香	小林 明梨	佐藤 未来	芝野 華奈	梶木 香里	
吉井 陸	高田 真優子	菅原 櫻希子	塩見 典大	田中 佑果	河添 有宏	
吉治 萌	田中 菜津子	関 美晴	上南 静佳	當麻 丹香	杉浦 真優	
	富田 萌映	武貞 有芳	姫野 恵利那	橋本 彩	高木 寛子	
	中井 亮太	田中 慎子	森田 萌子	蓬萊 真美	砥上 宏子	
	早田 真理子	辻谷 優菜	柳本 嘉希	松地 里沙子	藤田 利沙	
大学院新入生	藤井 日加里	中村 元	山岸 あかね	松山 真菜	矢木 夕美子	
池内 正剛	矢田 拓也	野口 裕美子	山田 由紀江	村上 穂波	矢崎 由希子	
池田 茉莉那	山下 遥加	林 結菜	吉澤 正人	山崎 彩香	山添 晶子	
清水 涼平						

研究・課外活動優秀者				遠隔地出身成績優秀者		
				1年次	2年次	3年次
亀甲 歩	藤本 万由	辻本 美菜		岸本 真穂	岡崎 彩香	青木 麻琴
山本 慶太	網 梨緒奈	久本 真琴		葛原 寛子	小山 未来	蒲田 歩美
吉留 利香	内田 量	眞下 香歩		窪田 万里奈	酒井 智帆	白岩 泰祈
北村 卓巳	折方 琴音	森川 夏穂		阪井 絵理	島 千晶	高橋 みのり
杉山 雄輝	金谷 賢吾	笠原 愛実		重岡 美玖	嶋田 佳子	中村 友香
				竹内 夕貴	野田 早紀	野津 薫乃
				富永 志穂	伴 美咲	松尾 直弥
				林 真帆	山下 真歩	水野 友貴
				林 和香那	横川 碧	森田 みつき
				水河 亜佳梨	吉岡 綾音	八島 有彌

今年度新設となった研究・課外活動優秀者の活動実績一覧について、ご紹介します。

- 6年次 きっこう あゆみ 亀甲 歩
『G. U. Choirでの合唱活動を通し運営ノウハウとコミュニケーション能力を得た』
- 6年次 やまもと けいた 山本 慶太
『京薬ソフトテニス部初の関西医歯薬ソフトテニス大会団体ベスト8』
- 6年次 よしどめ りか 吉留 利香
『本学代表として医療チーム学生フォーラムに参加し、医療系学生イベントを企画運営した』
- 5年次 きたむら たくみ 北村 卓巳
『「ディスクゴルフ」2016年度日本ランキング6位。2017年度世界選手権出場権獲得』
- 5年次 すぎやま ゆうき 杉山 雄輝
『山科区や京薬会、図書館などマンドリン演奏ボランティアを継続して地域交流に貢献した』
- 5年次 ふじもと まゆ 藤本 万由
『研究テーマについて日本薬学会や日本薬理学会年会での発表及びBBRC誌への掲載』
- 4年次 あみ りおな 網 梨緒奈
『スポーツ分野の競技エアロビックにおいて個人競技で全国大会に出場した』
- 4年次 うちだ りょう 内田 量
『本学の剣道部に所属しており京滋学生剣道大会個人戦二段以下の部において準優勝した』
- 4年次 おりかた ことね 折方 琴音
『こどもホスピスにて、絵本の読み聞かせ等のボランティア活動に取り組んでいる』
- 4年次 かなたに けんご 金谷 賢吾
『管弦楽部のコンサートマスターとして楽団を主導し、その発展に貢献した』
- 4年次 つじもと みな 辻本 美菜
『関西薬学生連盟硬式庭球大会で、女子団体にシングルスとダブルスで出場し優勝した』
- 4年次 ひさもと まこと 久本 真琴
『後輩へ大学生活を伝える母校訪問を毎年行い、高校と大学を繋ぐ架け橋となる役割を担った』
- 4年次 ましも かほ 眞下 香歩
『関西薬学生硬式庭球大会での活動実績～優勝への3年間の軌跡～』
- 4年次 もりかわ なつほ 森川 夏穂
『部活動において、全日本薬学生ソフトテニス大会で3位に入賞した』
- 2年次 かさはら まなみ 笠原 愛実
『薬物乱用防止シンポジウムでのパネリストとして薬学生の立場で自分の考えや意見を述べた』



2017年度 給付型奨学生表彰者

～ 6月のオープンキャンパス ～

6月4日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

受験生、付添者を合わせて315名（前年比：67.5%）の参加者がありました。創立130周年記念館を会場とし、「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長メッセージ」では、後藤学長から「薬学という大空への飛翔」というテーマで、薬学を目指す高校生に向けて話がありました。「大学紹介」では、安井入試広報委員長から、本学の概要説明がわかりやすく行われました。

「在学生の話」では、6年次生の吉留利香さんから学外での学生主体の学会総会や学内でのイベントなどを通じて成長できたことについて話がありました。「卒業生の話」では、三重大学医学部附属病院薬剤部に勤務されている辻本明日香様に病院での実際の薬剤師業務や本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をいただきました。「在学生の話」、「卒業生の話」ともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館、臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。在学生の学生広報スタッフが施設見学の誘導や受付等を行い、参加者からは在学生と気軽に話ができたと良好でした。躬行館食堂で実施した「相談会」には、69名の相談者があり、入学試験や学生生活、奨学金や就職などの相談に応じました。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月5日（土）・6日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日とも猛暑日にもかかわらず、1,858名（前年比：99.8%）の参加者がありました。創立130周年記念館を会場として「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在学生の話」は、6年次生の佐木智彦さんと宮崎愛梨さんの2人に実施してもらい、両日とも好評でした。

参加者からは、大学紹介について「大学の目指す方針などがよく分かった」、在学生の話については、「実際の研究や大学生活が充実していることが分かりとても参考になった」、体験実習については、「貴重な体験ができ、在学生と交流もできて良かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、「自分で見て回るより、詳しいことが知れた」などの声が多く聞かれました。

相談会は、躬行館食堂で実施し、両日合計264名の相談者があり、教育職員、事務職員、在学生が相談に応じました。

10月29日（日）開催のオープンキャンパスも、学生広報スタッフを前面に出し、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 2017年6月、8月のオープンキャンパス参加人数

	受験生	付添者	合計
6月4日（日）	168名	147名	315名
昨年度	243名	224名	467名

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月5日（土）午前	402名	282名	684名	659名
午後	165名	125名	290名	253名
小計	567名	407名	974名	912名
8月6日（日）午前	362名	261名	623名	639名
午後	155名	106名	261名	310名
小計	517名	367名	884名	949名
合計	1,084名	774名	1,858名	1,861名
昨年度	1,043名	818名	1,861名	

■ 2017年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生）

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット（本学のホームページ）	334	62.4
2	高校の進路指導または資料	117	21.9
3	家族または親戚	97	18.1
4	オープンキャンパスのチラシ・DM	88	16.4
5	先輩・友人・知人	49	9.2
6	LINE@	26	4.9
7	受験雑誌など	5	0.9
8	予備校	4	0.7
9	新聞	1	0.2
10	その他	6	1.1



会場の様子

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	400	74.8
2	実験・研究などの施設・設備の確認	285	53.3
3	入試情報の確認	249	46.5
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	175	32.7
5	授業内容の確認	128	23.9
6	研究内容の確認	126	23.6
7	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	123	23.0
8	薬学6年制の確認	109	20.4
9	就職状況や進路指導の確認	104	19.4
10	薬剤師国家試験対策についての確認	97	18.1
11	クラブ・サークル活動などの確認	74	13.8
12	在学生の確認やコミュニケーション	64	12.0
13	病院・保険薬局実務実習の確認	62	11.6
14	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	56	10.5
15	学生相談・サポート体制の確認	32	6.0
16	教育職員及び事務職員の確認や相談	15	2.8
17	その他	21	3.9



研究室見学



参加者の体験実習

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	220	41.1
2	検討中	184	34.4
3	推薦入試	177	33.1
4	A方式（センター前期）	177	33.1
5	C方式（センター後期）	42	7.9

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？（全体）

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	331	61.8
2	まあ良かった	152	28.4
3	あまり良くなかった	3	0.6
4	全く良くなかった	0	0.0
5	無回答	49	9.2
合計		535	100.0



相談に乗る本学学生

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	229	42.8
2	少し受験意欲が高まった	234	43.7
3	変わらなかった	37	6.9
4	少し受験意欲が減退した	0	0.0
5	かなり受験意欲が減退した	1	0.2
6	無回答	34	6.4
合計		535	100.0

※有効回答アンケート数：535

副学長（研究科長） 赤路 健一

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、大学院の教育・研究関連のイベントを報告いたします。ぜひご覧ください。

■ 5月9日（火）課程によらない博士学位論文口述発表開催

4名の発表者による口述発表が行われました。

多数の教育職員、大学院生、学部生が聴講し、活発な質疑応答が行われました。

■ 6月23日（金）課程による博士学位論文口述発表開催

薬学専攻博士課程1名の発表者による口述発表が行われました。

多数の教育職員、大学院生、学部生が聴講し、活発な質疑応答が行われました。

■ 6月29日（木）課程によらない博士学位論文公開総説セミナー開催

4名の発表者による公開総説セミナーが行われました。

セミナーは、予定時間をオーバーし、充実した質疑応答が行われました。

■ 6月29日（木）大学院説明会開催

第1部では、赤路研究科長から入試概要や教育内容等が説明されました。

引き続き、第2部では「研究者を目指す女子学生のための説明会」として、内藤行喜助手（代謝分析学分野）と薬学専攻博士課程2年次生遠藤京子さん（薬理学分野）の講演が行われました。

■ 7月21日（金）学外講師による「薬学英语特論」を開催

静岡県立大学のホーク・フィリップ准教授を「薬学英语特論」の講師としてお招きして、英語によるプレゼンテーション講座が行われました。

■ 8月29日（火）総合薬学セミナー・公開セミナー合同開催

薬学専攻博士課程12名、薬科学専攻博士後期課程2名による総合薬学セミナーと薬科学専攻博士前期課程1名による公開セミナーが合同で開催されました。

多数の教育職員、大学院生、学部生が参加し、活発な質疑応答が行われました。



総合薬学セミナー・公開セミナーの様子

News お知らせ

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第15回「文化講演会」のお知らせ

日 時：2017年11月4日（土） 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 本校地 Q31講義室（予定）

講演者：鈴木 栄樹氏（京都薬科大学 基礎科学系一般教育分野 教授）

演 題：京薬異才伝1 -近代京都のマルチタレント 中川重麗（四明）-

講演者：秋元 せき氏（京都市歴史資料館 研究員）

演 題：京薬異才伝2 -近代京都実業界・政界の雄 浜岡光哲-

※予約不要・聴講無料です。当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみください。

7月30日（日）本学実習室にて、市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会』と共に小学生対象の理科実験講座「身近な夏の不思議体験2017イン山科」を開催しました。

今年のテーマは「ミクロの世界」。当日は山科区の小学生124名が白衣に身を包み、2種類の顕微鏡を手作りしたほか（「顕微鏡を作ってみよう！」）、大学所有の顕微鏡での観察を通じて、ミクロの世界を堪能してもらいました（「ミクロの世界をのぞいてみよう！」）。



実習室に科学者のタマゴたちが集合

「顕微鏡を作ってみよう！」では、レンズの仕組みを学んだあと、世界最古の顕微鏡といわれるレーベンフックの顕微鏡を作りました。今回はレンズに直径4ミリのガラス玉を採用し、拡大倍率100倍の顕微鏡が出来上がりました。次に顕微鏡の歴史を振り返ったあと、2枚のレンズで構成される拡大倍率150倍の複式顕微鏡を作成しました。完成後は「オオカナダモ」や生きた「ミジンコ」を観察し出来栄の確認です。顕微鏡のピント合わせに夢中になったり、ミジンコが躍動する様子に歓声が上がるなど、会場は大いに盛り上がりました。



手作り顕微鏡でミジンコを観察しました

手作り顕微鏡のあとは、学生実習で使用している光学顕微鏡を使って玉ねぎの観察を行いました。大学生が使う本格的な顕微鏡だからと、緊張の面持ちで操作していた子どもたちも、染色された赤い核が見えた瞬間笑顔があふれ、「つぶつぶがたくさん見えました！」や「とてもきれい！」と私たちに嬉しそうに報告してくれました。



玉ねぎの細胞をスケッチしています

実験終了後、子どもたちから「今日の実験でミクロの世界はまだまだ色々な不思議でたくさんということが分かった」、「肉眼では見えないところにも秘密はたくさん隠れていることを知れた」等の感想をいただきました。今年も参加した子どもたちに、身近にある不思議や理科実験の楽しさを実感してもらえたようで嬉しく感じています。

今年で7回目を迎えた本講座は、地域の方々と企画を作り上げているのが特徴の一つです。今回も企画立案の段階から対話を重ね、当日はスタッフとして約30名の方々に子どもたちの実験をサポートしていただきました。



地域スタッフのサポートは欠かせません

このように地域と協働し開催する本講座は、京都市から3度の表彰（2015年度：京都はぐくみ憲章実践者表彰「育ち学ぶ施設」部門、2016年度：地域力アップ貢献事業者等表彰、2016年度：京都はぐくみ憲章感謝状）を受けるなど、外部からも高い評価をいただいています。今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童の理科教育の一助となるよう、この取り組みを継続していきたいと考えています。

最後に、本講座は国立青年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受け実施しました。また市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会』の皆様には、事前リハーサルで理解を深め、子どもたちへのやさしい声かけと丁寧な実験サポートで活動をサポートしてくださいました。この場を借りて深く感謝いたします。

■ 自己理解について

皆さんは自分のことをどれくらい理解できていると思われますか？

当然ながら自分自身のことは自分が一番わかっている。はたして本当にそうでしょうか？

自己評価イコール自己理解とは限らないのですが、存外自己評価を自己理解と思い込んでしまっている方がおられるようです。

カウンセリングでは自己イメージを見直す作業を行うことがあるのですが、自己イメージを意識化する手法のひとつとして、「私は〇〇〇」という文章を20個ほど書いていただくことがあります。

20書くというのは中々大変な作業で、書き上げるまでに結構な時間がかかる方もいらっしゃいます。出来上がった文章には名前や性別、出身といった外的な事実について書かれているものもあれば、自分の性格や考えといった内面的な事柄について触れているものもあります。他にも自分の長所や短所、好き嫌い、夢や希望、理想など、さまざまな事が表現されます。こうして書かれたものを検討することを通して、自分を理解する手がかりを得てゆきます。

たとえば、外的な事実即して、あるいは自分の思いや感じ方に添って記述する、いずれの傾向がまさっているのか、短所・長所のいずれか一方に表現が偏りがちなのか、両面から自己を評価した記述になっているのか…といった視点から検討することで、自己認識や自己評価の癖に気づくことができます。自分が自身のどのようなところに着目しているのか、気づいているのか、それについてどのような感情をもっているのか、どのように捉えているのかといったことが明らかになります。

自己評価の低い方であれば、現実の自分よりも否定的な面を中心に表現しがちで、卑下するような態度が優勢なことが多く、一方自己評価の高い方は肯定的な面で自己を表現し、自信ある態度が伺われることが多いようです。このことが示すように、自己イメージはその人の自己評価の高低によって左右される側面があります。自己を評価する際には、その人の自尊感情や、自分自身へのさまざまな感情が刺激され、評価に影響を及ぼしており、その意味では自己評価は客観的なものとは限らず、各人のバイアスがかかっている可能性が十分に考えられます。つまり、自己評価が自分の人となりを正確に把握しているとは言い切れない余地があるのです。

自分を理解することは、プラス面もマイナス面も含め、ありのままの等身大の自分に目を向けることでもあります。自分自身の否定的な面や至らぬ面にばかりに注目してそれが自分のほとんどすべてだと思い込んでいたようでしたら、あらためて自分の多様な面に目を向ける努力をしてみても如何でしょうか。また、短所と決め込んでいる特徴も逆の側面から捉え直すことができることにも心を留めておいていただきたいと思います。例を挙げると、「優柔不断」は、「優しい、人を傷つけないよう気遣いができる」、「神経質」は、「細やか、慎重に物事に当たる」、「頑固」は、「一途、意志が強い」…というように捉え直すことも可能です。

自分を今もっている自己評価の枠に押し込んでしまっていないか、ときには自己点検してみませんか。自分を決めつけて萎縮させてしまい、成長や変化を阻害してしまわないよう気をつけてください。

(臨床心理士 建部 有里／電話：075-595-4672)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

●相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

●サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075-595-4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

2017年度 第23回 京都薬科大学 公開講座

- 主 催：京都薬科大学
- 後 援：山科区役所
- 日 時：2017年10月21日（土）13:00～16:30
- 場 所：京都薬科大学 愛学館 3階 A31講義室
- 受 講 料：無料
- プログラム：1. 講演：①『新5ポンド紙幣から見えてくるイギリスの今』 13:00～13:40
今井 千壽 （京都薬科大学 准教授）
②『知っておきたいPM2.5・黄砂などのこと』 13:50～14:30
渡辺 徹志 （京都薬科大学 教授）
2. 見学：薬用植物園御陵園（先着150名） 14:50～16:30
薬草の見学・効能説明など。
※スニーカーなどの運動靴でお越しください。
- 詳細は、京都薬科大学ホームページ（<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）をご覧ください。

2017年度 実務支援セミナー

「注射薬の無菌混合調製演習」実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用します。

- 日 時：2018年2月25日（日）12:00～16:30
- 場 所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室
- 受講対象：注射薬無菌混合調製の経験が少ない方 ※リピーターの受講可
- 講 師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 特命教授 高山 明 先生
特命教授 小林 千代子 先生
講師 本橋 秀之 先生
- 定 員：20名
- 受 講 料：5,000円（テキスト代含む）
- 認定単位：2単位 （共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター G01）
- 申込受付期間：2017年11月1日（水）～12月10日（日）
- 申込方法：①または②の方法でお申し込み下さい。
① 下記URLアドレス「WEB申込フォーム」よりお申込み
<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/20180225.php>
② 電話にてお申込み（別途FAXによるお申込みも必要です）
TEL 075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00）
- 詳細は、京都薬科大学 生涯教育センター ホームページ（<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/20180225.php>）をご覧ください。

■ 以上についてのお問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

- ・TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00）
- ・FAX：075-595-4683
- ・E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

陸上部

関西薬学生対校陸上競技大会 (2017. 8. 19)

男子 総合2位

100m	2位 野村航也 11" 30
	3位 坂口雅弥 11" 62
200m	2位 坂口雅弥 24" 18
	3位 勝山陽介 24" 23
400m	1位 勝山陽介 57" 34
800m	3位 勝山陽介 21' 0" 03
	5位 沼田裕也 2' 14" 01
1500m	3位 松井宏泰 4' 29" 78
	5位 沼田裕也 4' 34" 87
5000m	3位 清水長智 17' 57" 42
走幅跳	4位 坂口雅弥 5m74
三段跳	3位 坂口雅弥 12m29
4x400mR	2位 沼田・勝山・野村・坂口 3' 41" 62

女子 総合1位

100m	3位 鈴木諒子 13" 88
	4位 嵯峨山理紗 14" 06
	6位 西岡香絵 15" 24
200m	3位 嵯峨山理紗 29" 37
	4位 鈴木諒子 29" 45
800m	1位 林千晶 2' 53" 76
	3位 荒木万輪 3' 11" 12
	5位 辻谷優菜 3' 14" 20
3000m	1位 田中里奈 12' 51" 33
4x100mR	1位 矢野・鈴木・西岡・嵯峨山 56" 84

男女 総合2位

今大会も1年次生を含めたたくさんの選手が入賞しました。残りの大会もこの調子で頑張っていきたいと思います。

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、また技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。

現在は10月15日の定期演奏会を控え、猛練習中です。部活では合奏練習中には真剣に演奏し、また日頃から学年の垣根を越えて仲が良いため、和気あいあいとした雰囲気の中活動しています。第89回定期演奏会は10月15日(日)の14時より(開場は13時30分より)京都市東部文化会館にて開催します。是非聴きにいらしてください！

ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス大会

団体戦 試験中のため不参加

個人戦 女子 小谷・吉岡ペア ベスト16

今後の予定

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

5月 四薬戦

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

漢方医学研究部

こんにちは。漢方医学研究部です。私たちは、この半年の活動として、植物の栽培、学祭準備、八月には合宿も行いました。合宿では松山大学にお邪魔させていただき、先方の教授や薬用植物研究会の皆さんのご協力のもと、植物園の見学と交流会への参加をさせていただきました。他大学の薬学生と話す機会はあまりなかったため、新鮮な体験ができました。

植物の栽培では、本学の薬用植物園に場所を借りて生薬の材料となるヤマノイモを6株育てています。今のところ順調に伸びてきているので、収穫後に試食会を行うことも考えています。今後は、学祭での班別発表会に向けてそれぞれが担当の生薬について調べまとめる予定です。

柔道部

柔道部は現在5名で火曜水曜の週2日に18時から20時まで稽古し、各自筋力トレーニングも行っています。2017年度上半期は、OB会の実施と秋に予定されている十二大学親善大会の主管をするための設備の準備を行いました。また師範や監督のご指導もあり、2年次生は昇級審査にて2名ともが一級となりました。夏以降に2年次生は初段、1年次生は一級になる事を目標に一層励んで参ります。OB会は6月11日に催され、総勢20名を超える先輩方にお集まり頂き、助言や激励を頂きました。

今後の予定としましては、前述の大会があります。十数年ぶりとなる量の新規購入やタイマー等機材の用意など、各方面のご助力を賜りながら準備を進めています。

採用

医療薬科学系薬剤学分野 助教 森下 将輝
(任期：2017. 7. 1～2022. 6. 30)
事務局調達検収室 室長 坂口 義美
(2017. 7. 1付)

昇任

共同利用機器センター 講師 服部 恭尚
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 助教 地寄 悠吾
(任期：2017. 7. 1～2022. 6. 30)
事務局庶務課 主事 後藤 慶子
(前事務局企画・広報課)
事務局進路支援課 主事 内匠 研介
(前事務局教務課)
(以上2017. 7. 1付)

配置換

事務局教務課長 課長 森 洋介
(前事務局入試課長)
事務局学生課長 課長 高野 江里
(前事務局教務課長)
事務局入試課長 課長 井本富美代
(前事務局学生課長)
事務局調達検収室 課長補佐 星野 展宏
(前事務局会計課契約係)
事務局企画・広報課 事務員 北田 彩
(前事務局学生課)
事務局会計課 主事 奥村 亮
(前事務局入試課)
事務局教務課 主事 坂口由美子
(前事務局会計課)
事務局入試課 主事 太田 寛之
(前事務局進路支援課)
事務局学生課 主事 五十嵐洋子
(前事務局庶務課)
事務局研究・産学連携推進室 事務員 太田 亮史
(前事務局企画・広報課)
(以上2017. 7. 1付)

兼務

事務局国際交流推進室室長 課長 高野 江里
(事務局学生課)
事務局調達検収室 主事 山川 晋平
(事務局施設課)
事務局調達検収室 事務員 磯部 正文
(事務局施設課)
(以上2017. 7. 1付)

兼務解除

事務局国際交流推進室室長 課長 川勝 章広
(事務局企画・広報課)
事務局研究・産学連携推進室 課長補佐 栗田 晃
(事務局情報管理推進室)
事務局情報管理推進室 主事 山川 晋平
(事務局施設課)
(以上2017. 6. 30付)

退職(任期満了)

バイオサイエンス研究センター 講師 西川 哲
(2017. 6. 30付)

退職

共同利用機器センター 技術専門職員 照屋千香子
(2017. 7. 31付)

任命

学内ジョブプロジェクトチーム
事務局企画・広報課 事務員 北田 彩
事務局庶務課 係長 山口 貴
事務局会計課 主事 夜船 宏哉
事務局施設課 主事 山川 晋平
事務局教務課 係長 近藤 利彦
事務局入試課 主事 中野 美香
事務局学生課 事務員 外村 友彦
事務局進路支援課 主事 谷垣 朱美
事務局研究・産学連携推進室 事務員 太田 亮史
事務局情報管理推進室 主事 北村 聡洋
(以上2017. 7. 1付)

*学内ジョブプロジェクトとは、学生へ学内で活動するボランティアやアルバイト情報などを発信し、正課外における学生の活躍の場を提供することを目標としたプロジェクトである。

News お知らせ

2017年度学位記授与式(前期)

9月29日(金)午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2017年度 学位記授与式(前期)が執り行なわれ、後藤学長から、課程博士1名、論文博士4名に学位記 博士(薬学)が授与されました。

■ 日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞

薬物治療学分野の松本 健次郎助教が「平成28年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞」を受賞しました。

本受賞は炎症性腸疾患や機能性消化管障害、さらには薬剤起因性消化管傷害などの難治性消化管疾患の病態解明および予防・治療法の探索を中心とした研究における実績、ならびに薬理系薬学部会に対する貢献から評価されたものです。

2017年8月25日に、受賞式ならびに受賞講演が開催されました。

受賞者：薬物治療学分野 助教 松本 健次郎

演 題：難治性消化管疾患の病態制御における温度感受性TRPチャネルおよびセロトニン5-HT₃受容体の役割解明

■ 生体機能と創薬シンポジウム2017においてポスター優秀発表賞受賞

2017年8月24-25日に京都で開催された「生体機能と創薬シンポジウム2017」（日本薬学会薬理系薬学部会）において、本学の学生3名がポスター優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：薬物治療学分野 4年次生 泉 大地

演 題：GPR35活性化は大腸上皮遊走促進作用を介して大腸炎を抑制する

演 者：泉 大地、塚原 卓矢、松本 健次郎、天ヶ瀬 紀久子、加藤 伸一

受賞者：薬理学分野 博士課程2年次生 遠藤 京子

演 題：pH感受性カリウムチャネルK_{2P}5.1結合タンパクCD81の同定とCD81によるK_{2P}5.1機能制御

演 者：遠藤 京子、川田 希帆、大和 優介、佐藤 寿史、鬼頭 宏彰、大矢 進

受賞者：病態生理学分野 博士課程3年次生 河西 翔平

演 題：アルツハイマー病モデルマウス海馬への骨髄由来ミクログリア様細胞移植における移植細胞の機能と脳内動態解析

演 者：河西 翔平、高田 和幸、射手園 将真、長山 紘子、黒田 絵莉子、地寄 悠吾、戸田 侑紀、中田 晋、矢野 義孝、芦原 英司

■ 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017において優秀ポスター発表賞を受賞

2017年8月26日に本学で開催された「次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017」（日本薬学会薬理系薬学部会）において、本学の学生3名が優秀ポスター発表賞を受賞しました。

受賞者：薬理学分野 4年次生 小林 周平

演 題：アトピー性皮膚炎マウス由来表皮細胞におけるTSLP過剰産生機構の解析

演 者：小林 周平、山田 由芽香、松井 利江子、大矢 進、藤井 正徳

受賞者：薬理学分野 5年次生 安井 悠真

演 題：C57BL/6マウスを用いた慢性掻痒モデルの確立

演 者：安井 悠真、渡辺 保志、大矢 進、藤井 正徳

受賞者：病態生理学分野 6年次生 磯村 拳一

演 題：新規 Wnt/ β -カテニン経路阻害剤は TGF- β 刺激によるA549 ヒト非小細胞肺癌細胞株の遊走を抑制する

演 者：磯村 拳一、若林 亮介、服部 恭尚、嶋本 康広、小林 数也、戸田 侑紀、高田 和幸、赤路 健一、芦原 英司

■ 病態生理学分野 高田和幸准教授の研究成果に関する記事が新聞に掲載

7月19日に記者会見を開催し、本学 病態生理学分野 高田和幸准教授が、A★STAR（シンガポール科学技術研究庁）SiGn（免疫学研究所）主任研究員Dr. Florent Ginhoux研究室との共同研究の成果について発表しました。

iPSから免疫細胞作製 京都薬科大

京都薬科大の高田和幸准教授らは19日、母親の子宮の中で胎児が成長する時期にできる免疫細胞の一種を人のiPS細胞から作ったと発表した。この免疫細胞を使えば、呼吸困難を起こす肺胞た

んばく症や、周期的に発熱と胸部の痛みを繰り返す地中海熱など、珍しい難病の治療につながる可能性がある。

作製したのは「マクロファージ」と呼ぶ細胞。胎児の初期に卵黄のうと部分で血液が作られる機能をiPS細胞で再現、マクロファージを作った。

iPSから脳内「掃除細胞」

アルツハイマー治療に期待

人のiPS細胞（人工多能性幹細胞）から、脳内の不要物を取り除く免疫細胞を作製することに成功したと、京都薬科大とシンガポールの科学技術研究庁などのチームが発表した。アルツハイマー病などの治療に役立つ可能性があるという。

この免疫細胞は、脳内の「掃除細胞」として知られるミクログリア。アルツハイマー病の原因とされる「アミロイドβ」などの異常たんぱく質を食べ、発症や進行を抑える働きがあると考えられている。

同大学の高田和幸准教授（病態生理学）らは、人のiPS細胞から、ミクログリアのもとになる免疫細胞と、神経細胞の2種類を作製。これらの細胞を混ぜて培養するとミクログリアに変化し、試験管内でアミロイドβを食べることも確認した。論文は米科学誌電子版に掲載された。

河本宏・京都大教授（免疫学）の話「様々な病気の治療が期待できる重要な成果だ。人の体内で正常に機能するかどうかは、さらに検証する必要がある」

読売新聞 2017年7月23日付

脳や肺で免疫、組織維持担う 組織マクロファージ iPS細胞から作製

京都薬科大

脳や肺などで免疫細胞や組織の維持を担う細胞をiPS細胞（人工多能性幹細胞）から作製することに、京都薬科大の高田和幸准教授らが発表した。

京都新聞 2017年7月20日付

授とシンガポールの国際研究グループが成功した。アルツハイマー病などの治療法の開発につながる成果で、米科学誌16日発表した。

体内に侵入した細菌や異物を取り込んで消化する免疫細胞であるマクロファージのうちの、脳や肺、肝臓などに定着する「組織マクロファージ」は、胎児期に特有の仕組みで作られることが分かったという。

グループは、マウスとヒトのiPS細胞に複数のタンパク質を加えることで、組織マクロファージの元となる細胞を作製した。この細胞から、脳や肺の組織マクロファージを作ることができた。

脳の組織マクロファージは、神経細胞を維持したり、アルツハイマー病の原因物質である「アミロイドβ」を取り込んで分解する機能があることが分かっている。高田准教授は、アルツハイマー病の治療では、iPS細胞由来の脳の組織マクロファージを移植することが有効な可能性がある。まずはマウスで研究を進めたい」と話している。（松尾浩一）

日本経済新聞 2017年7月20日付

第11907号 (第2種郵便物認可)

薬事日報 2017(平成29)年8月9日 水曜日 (8)

iPS細胞から免疫細胞誘導

病態解明や治療法開発に期待

京都薬大・高田氏の研究チーム

高田氏

1. 一次免疫系発生に伴うマクロファージ前駆細胞 (Mac) への分化誘導

2. 組織マクロファージ前駆細胞への分化誘導

3. 組織マクロファージの分化誘導

iPS細胞からMacを誘導できることや、Macを組織マクロファージに分化誘導できることを示した。(高田和幸准教授)

薬事日報 2017年8月9日付

*これらの記事は本学ホームページにも掲載されております。詳細はそちらをご確認ください。
(<https://www.kyoto-phu.ac.jp/>)

＜平成29年度京薬会支部総会の開催状況＞

鹿児島支部(2/26)、福井支部(4/15)、徳島支部(4/23)、高知支部(9/2)、富山支部(9/24)、岡山支部(9/30)、がすでに開催され、今後は三重支部(10/1)、北海道支部(10/15)、京都支部(10/21)、愛知支部(11/5)、東京支部(11/19)、静岡支部(12/3)の各支部総会開催が予定されています。京薬会より会長、副会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき、各地で大学と地域の交流を深めております。

＜京薬祭とホームカミングデー＞

今年度も京薬祭に合わせて11月5日(日)に、今年で第8回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年も多くの卒業生の皆さんのご参加をいただきました。

本年は後藤学長による大学の近況の紹介に加え、医薬品医療機器レギュトリーサイエンス財団、昭和大学薬学部客員教授(臨床薬学講座)野口隆志氏に「薬害に学ぶ医薬品・薬剤師に関する規制-クスリはリスク-」と題して講演を頂きます。このほかにも昨年に引き続き、在学生による講演も予定しています。

また、当日は京薬祭期間中ですので、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2017年6月～2017年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等(卒業年次順)＞

山脇 忠昭(昭28) 安藤 寛治(昭29) 山岸 伸行(平03) 山岸亜紀子(平05) 京薬会

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社

＜法人役員・評議員・職員(五十音順)＞

佐原 和美(係長) 高野 江里(課長) 武田 禮二(前理事長) 武野 薫(室長) 富永 重夫(職員)

(2017年8月31日現在)



KPU NEWS No. 191

2017年10月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。